

# 泉のほとり

●三位一体後第一六主日

今日の詩篇「第九五篇」

深い地の底も御手の内にあり  
山々の頂きも主のもの。



## 友だちを作りなさい

第二五章の譬え話は、主イエスが徴税人や罪人たちを受け入れて、食事まで一緒にしたことによる不平を言ったファリサイ派に語られたものです。それに対して今日の話は、弟子たちに語られました。彼らにも弁えておくべきことがあるのです。

ある農場の管理人をしていた男が、無駄使いをしていると告発されました。当時、多くの農場主が、管理を人に任せて自分は町に住んでいたのです。しかしこの管理人はきちんと仕事をせず、怠慢や不手際のために、主人に損害を与えていたのです。告発を受けた主人は怒って、管理人に会計報告を出せと言います。

管理人は困りました。会計報告を出せば自分の不手際が明らかになってしまいます。普通であれば、正直に謝罪をして赦しを願うのでしょうか。そうすれば主人が赦してくれるかも知れません。でもこの管理人はそうしませんでした。代わりにとんでもないことを考えたのです。

彼は、この農場から油を百樽買った人と呼んで、証書を五〇樽に書き換えさせます。そして言ぶその人に、自分が困った時には助けて欲しいと頼むのです。それから小麦を百袋買った人と呼んで、八〇袋に書き換えさせ、同じように頼みます。それを全部の人に、彼らを友だちにしたのです。

主人はどうしたのでしょうか。かんかんに起こって即刻クビにしたでしょうか。そうではありません。よくやった、と言って、この管理人をほめたので

す。

そして主は、この世の子らの方が、光の子らよりも、仲間に対して賢く振る舞っている、と言われました。怒らぬ徴税人や罪人には、友だちが多かったのでしょうか。それに対して、ファリサイ派には少なかったのだと思います。

ネパールで医療伝道を始めた医者に、先祖の伝道者が、現地人の友だちができたか、と問いました。その時その医者は、自分が助けてあげた人はいるけれど、自分の悩みを聞いてもらい、助けてもらう人はいないことに気づきます。自分が現地人より上に立っていたのです。

この譬えを聞いて主をあざ笑ったファリサイ派に、主は「あなたがたは、自分の正しさを見せびらかす人たちだ」と言われました。正しさを見せびらかしたり、人の上に立っていたら、友だちは作れません。

不正の富を用いても友だちを作りなさい、と主は言われます。その言葉通り、主は、不正に得た富で食卓を用意した徴税人や罪人に招かれて、食事を共にし、彼らの友だちになられた。

友だちがわたしたちを天国に入れてくれるわけはありません。でもわたしたちが身を低くして友だちを作ったときに、その中に主イエスもいてくださるのです。

(ルカ・六・一〜九)

## 祈り

○わたし共に正しい道をいつも考えてくださる主イエス・キリストの父なる神。この朝、使徒信条を唱えました。今、慣れた口調で主イエスの十字架における贖いを告白する時に、言葉として知っている故に、かえって主が命を献げてくださったという重い出来事を軽く送ごしてしまいう心を改めて悪い、恥じるものであります。

主イエスの十字架の死に自分の命を重ねることで己に死に、謎りの主の命の中でわたし共に新しい命を与えられたことを確信したものであります。しかし、一日の生活、隣の人との生活、家族との生活の中で、祈ること少なく、この確信がどんなに鈍くなり、あやふやなものになってしまっていたかに改めて気づくものであります。

どうぞこの朝、あなたの新しい言葉をもう一度はつきり聞かせてください。わたし共もこの告白に生き抜くことができるとの確信をあなたからいただくことができますように。あなたは、へりくだり神けた心は何にも勝つて喜んで受け入れると約束して下さっています。心からなる献げものを作ることができますように。惜しみの心を消して下さい。

怒りの心を和らげて下さい。まだ赦していない人にこの次会うときは、少しでも和やかな心を抱いて接することができますように。

日々のニュースを聞くごとに、恐れを抱くわたし共であります。平和を願っているところに、なお一層の惜しみの炎が燃えるようなニュースを聞く時に、心を痛めます。そのために何もなし得ない無力を覚えるものであります。望みを捨てることはありませんように。御心を尋ねつつ、あなたの御業に携わる者がひとりでも多く与えられますように。何よりも御心に生きると約束したわたし共であります。恵みに応えた歩みを日々作ることができますように。そのために必要な御言葉を与えてください。祈りの言葉を与えてください。愛に生きる力を与えてください。主は生きておられるとの確信を与えてください。死に直面してもうろたえない心をお与えください。兄弟姉妹たちのために祈る心を与えてください。理解されることよりも、先に理解し、受け入れることを学ばせてください。自分の強さを誇るより、弱さを嘆き、助けを求めている人の助けとなることを、まず自分の恵みとすることができますように。

家族を顧みて下さい。友人たちを祝福の中においてください。この国を、物の豊かさに誇る国ではなく、へりくだる国としてください。世界の中で平和を確かならしめてください。そして、主が早く来てくださいますように。

主イエス・キリストの御名によって、感謝し、祈り願います。アーメン

(加藤常昭「み前にそそぐ祈り」より)

## 今日のお知らせ

○礼拝後、着替えられる方は着替えて、一時二〇分にホールにお集まりください。

祈って、バザーの準備を始めます。一二時三〇分にキッチンで奉仕部がお弁当を販売します。六〇備用意してあります。まだ自分の店の準備がない方々は、他の店を手伝っていただけると感謝です。またこの日からコート掛けの下の部分に新品コーナリーの荷物を移動します、私物を置かれている方は移動をお願いします。

○バザーの準備作業で駐車場を使用するために、この時期は使用できる駐車スペースが少なくなりします。特に次週八日のバザー前日と九日のバザー当日は、全く使えなくなりますので、近くのパーキングを御紹介します。事務所の井手直行兄までお申し出ください。

○一五日に、バザー感謝会を行います。皆さんご参加ください。愛餐会の参加者数を確認するために、特別に四百円のチケットを販売します。事務所でお求めください。

○今年も説教塾のために、五二名の方が総額で三万四千円を献げて下さいました。ありがとうございます。

○紫園音楽伝道師は、四日(水)に大阪レディーズランチョンで、七日(上)は教文館のミニコンサートで奉仕をします。どうぞお祈りください。

## 四国だより

朝のひんやりとした風につけて遊ぶトンボの姿が見られる頃になりました。謙んで八月の牧会報告書を送りました。牧会ではこのころ主によって新しい風が流れて来ているのを実感しております。それにお従いして導いていただいております喜びがあります。

礼拝ではこのところ、主のご再臨に備える御言葉を学びつつ実践に励むようにと、ご聖霊の的確なお導きをいただいております。

今頃になってとても不思議に思えますのは、開拓伝道十周年の記念誌が、東京―松山―内子町―北九州市へと、小さな旅をはじめるとは思いもよらぬ事でした。過去の点と現在の点が主によって一挙に一本の線となり、主のみこころのままに進み続け、目的地で止まったかの様です。

この奇跡の始まりは、二〇一七年二月に一人の男性が品川教会に初めて礼拝出席した日に起こりました。(主のみこころどおりに) 四国にいる私が知るはずもない事でした。徳永様という男性はたまたま東京には御用のため上京していたのでした。礼拝出席の後、伝道部の樋口滋信兄

が対応された事により、四国の松山に住んでおります。いつか四国に来られた時には是非連絡してほしい」と、念を押されたそうです。

不思議なことには次の月、四月末に私共の教会で一緒に礼拝する事が樋口さんと息子さんには予定されておりました。四月末にはシオン・フルゴスベルチャーチにてご一緒に主を礼拝いたしました。幸いなお交わりの後、西条を出発される日に、「明日は松山に寄って、徳永さんにお会いしてみようと思います」との事でした。滋信兄が連絡すると、とても喜ばれ、「僕の裁しい友人を一人つれて行っても良いですか」との事。予定外のこの言葉こそが、主のみこころであった事が後々に分かったのです。四人で談話の後、お二人は東京へ帰られました。

その後、樋口芳子姉のもとへ「もう一人の友人―なる方からお手紙にて、「是非シオン・フルゴスベルチャーチの先生にお会いしたい」との事です」とご連絡をいただきました。その時、樋口芳子姉の発案で、「開拓十周年の本を送りするのはどうでしょうか」との事で、感謝し了解いたしました。こうして十周年の記念誌は、東京から松山へ送られ、松山から内子町に送られ、そこから西条に住む親類の方へと旅を続けて行きました。驚きました。(つづく)

二〇一七年九月七日 田端良恵

## 聖書の会

10月4・11日(水)

○朝の聖書の会

○聖書の夕べ

2週連続でお休みです。

10月18日から再開します。

## ミニコンサート

11月9日(木)12時30分開演

ピアノ演奏 鷺谷 幸

## 次週礼拝

●1回礼拝(午前10時)

讃美歌 II 59番 讃 2-1 361番

説教 「誇りを持って仕事を」

聖書 ルカ17章5〜10節

説教者 黄允湜 副牧師





## 1 回礼拝 (午前10時)

讚美歌 1159番

讃21-361番

説教 「神の助けに生きる者」

聖書 ルカ16章19～31節 (新約P141)

司式者 山名隆史 兄

説教 聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「アレグレット・ジオコーソ」G.R.アンデル

### ○ 讚美歌第二編 59番

#### 1. すべてのもつらすかみよ

み名をたたえ ほめうたささぐ

みめぐみゆたけく 正義みつる

かみこそわれらの盾 また謙

#### 2. よろこびもてささげまつる

うたはたかく みくらにとどき

ものみなどよみて こたえうたわん

「かみにぞみさかえ ときわにあれ」と

#### 3. わが主イエスにしたがいゆき

こころひくく自あてはたかく

この世にわが主の み旨のなる

その日をのぞみて われらいそしまん

### ○ ピアノによる讚美

アンダルーサ (祈り) E. グラドス

### ○ 聖歌隊による讚美

「人は主を求めている」 G. 純ツ

通り過ぎゆく 人の目の中

空しき恐れ だれが知る

笑いの下の生きる痛み

叫び聞くのは主イエスだけ

人は主を求めている 破れた夢の最後のとびら

人は主を求めている 救いの主を求めている

暗やみの中 あがないの主の

愛こそが我らの心結ぶ

其に苦しみ分かち合い

み言葉により命受ける 人は主を求めている

破れた夢の最後のとびら

人は主を求めている

救いの主を求めている

我ら全て主に献げん 主に

### ○ 讚美歌21-361番

#### 1. この世はみな 神の世界

あめつちすべてが 歌い交わす

岩も木々も 空も海も

み神のみわざを ほめたたえる

#### 2. この世はみな 神の世界

鳥の音 花の香 主をたたえる

朝日 夕日 空に映えて

み神のみわざを 語り告げる

聖餐曲「メデイテーション」原田 信次郎

後奏曲「ソワソンの鐘」M. デュリャル

※ 礼拝には、聖書、讚美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。